

コロナワクチン、死亡 1,739 件、 重大な副作用 6,286 件。3 月 19 日付、米 CDC（疾病対策予防センター） データ。

From the 3/11/2021 release of VAERS data:

Found 38,444 cases where Vaccine is COVID19

Table

Event Outcome	Count	Percent
Death	1,739	4.52%
Permanent Disability	794	1.91%
Office Visit	5,837	15.18%
Emergency Room	27	0.07%
Emergency Doctor/Room	5,889	17.4%
Hospitalized	3,568	10.32%
Hospitalized, Prolonged	0	0.00%
Recovered	14,128	36.75%
Birth Defect	48	0.12%
Life Threatening	1,205	3.13%
Not Serious	14,112	36.71%
TOTAL	148,485	1126.14%

† Because some cases have multiple vaccinations and symptoms, a single case can account for multiple entries in this table. This is the reason why the Total Count is greater than 38444 (the number of cases found), and the Total Percentage is greater than 100.

終わらない副作用

コロナワクチン副作用の公表をいやがる日本政府に対し、米政府は毎週金曜日に新しいデータを公表しています。その3月19日の最新データによると、昨年12月14日以来のワクチン(全ワクチン)後の有害事象報告は48,495件、死亡1,739件、重大な副作用6,286件。コロナワクチンに限ると、接種総数9,820万人のうち、38,444件の有害事象が報告されています(CDC Ignores Inquiry into Increasing Number of Deaths, Injuries Reported After COVID Vaccines)。

ベル麻痺は478件、うち66%がファイザーワクチンによるもので、モデルナワクチン(36%)の約2倍。また、米では3月2日からジョンソンエンドジョンソン(J&J)のコロナワクチン接種が始まりましたが、3月11日までに早速9件のアナフィラキシーが報告されたようです。これらのワクチンでアナフィラキシーが多数発生しているのは不思議ではありません。なぜならJ&Jのワクチンには、ポリソルベート80(polysorbate 80)が、そしてファイザーとモデルナのワクチンにはポリエチレングリコール(polyethylene glycol, PEG)が含まれているからです。両方とも激しいアレルギー反応を起

こすことで知られる物質です(先日の講演会でもこのPEGについて解説しました)。

以下は先週のデータのまとめです:

- 3月11日までに死亡した1,739件のうち、接種から48時間以内の死亡が30%、24時間以内の死亡が21%。接種後48時間以内に有害事象が起きた人の46%が死亡に至っている。インフルエンザワクチンでは、同じ時間の死亡者は85人に過ぎない。
- 死亡者の19%が心疾患に関連していた。
- 男性が53%、女性が44%、残りは性別不明
- 死亡者の平均年齢は77.9歳、最も若い死者は18歳
- 妊婦289名がコロナワクチンによる有害事象を報告、流産または早産が90件。妊婦に対するコロナワクチンの安全性・有効性は確認されていない。しかしJ&Jは、今後、妊婦、幼児、免疫不全症の人を対象に治験を開始すると発表している
- アナフィラキシー1,689件、59%がファイザーワクチンによるもの、41%がモデルナ製

なお、死亡した18歳はモデルナワクチンの接種翌日、疲労と体の痛み、頭痛を訴え、2日後には胸痛を訴え、その日の遅く、睡眠中に死亡しているのが発見されたそう。また、22歳の女性は、接種後、「重大な、生涯にわたる基礎疾患」を発生し、24日後に死亡したとのこと。しかしながら、CDCによるこれらの事例報告の調査はアップデートされおらず、1月27日までの198件の分析しか公表されていないとのこと。ワクチン副作用の実態報告は、どの国でも出したがらないのです。そしてこれらの深刻な副作用は、アストラゼネカワクチンの「血栓騒ぎ」の陰で、ほとんど報道されていません。

アメリカでのコロナワクチン接種後の死者 15,000 人— 米在住ハンガリー人ジャーナリスト。



ました（公表頻度も不明なのでこう書くしかない）。これは、東北などで地震も続き、止めたくても止められず、「副作用の懸念なし」ということにして「接種継続」を選んだのですね。

（中略）

2021/3/23

コロナワクチン、アナフィラキシーの懸念なし？

激しいけいれんをくり返す患者…コロナワクチンの副作用被害者。

これは米在住のハンガリー人ジャーナリストの元に送られてきた、膨大な被害者情報のごく一部だそうです。

動画は以下から。

(<http://kiliti.main.jp/video/WakuchinHigai2.mp4>)

この動画には長い被害者リストがついています。山本もまだ全部は見えていませんが、検索できるものは検索し、報道されているなど、事実であること確認しました。

このジャーナリストによると、**アメリカでのコロナワクチン接種後の死者はすでに 15,000 人**に上っているとのこと…案の上、CDC の発表はごく一部に過ぎないのですね。

一方、日本政府は副作用報告さえやめてしまい

コロナ問題の目的が「全人類コロナワクチン接種計画」であることを考えると、事業者がこのような手—副作用の否定、過小評価、情報遮断、報道歪曲など—に出るのは予想されていたことです。

もう一度言いますが、実験ワクチンは、被接種者に何が起きるかを「観察」するためのものです。決して病気の予防あるいは重症化のために打つわけではない（第一、そんな有効性など証明もされていない）。市民にできることは、なるべくコロナワクチンを打たないこと。そして、打ってしまったら副作用と思いき症状が出た方、どうぞ信頼できるメディア（地元のメディアがいい）、政治家（これも地元の）、ブログやサイトにアクセスし、事情を伝えてください。そうしなければあなたたちの身に何が起きているか、誰も知ることはできないからです。なお、被接種者の今後の健康は保証されておらず、将来、ひどい状況になっても誰も責任など取りません。

2021/3/25